

2017年1月15日川越教会

## 与 え な さ い

加藤 享

### 【聖書】 マタイによる福音書7章7～13節

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたのだから、パンを欲しがると自分の子供に、石を与えるだろうか。魚を欲しがると、蛇を与えるだろうか。このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。」

### 【序】 初詣に思う

去る1月3日、用があつて川越駅の方に出かけました。すると駅から続々と人混みが川越大師喜多院に向かって続き、警察官の交通規制が行われていました。子どもも一緒の家族連れも多く見かけました。9日月曜の休日も、ケーズデンキに買い物に行き、帰り道、喜多院へ向かつての道にうっかり入ってしまいましたら、車の渋滞で動きが止まっていて、抜け出すのに30分ほどかかりました。遠方から車で参詣者も多いのですね。驚きました。

新聞に初詣のアンケートが載っていました。初詣をする人が69%、初詣をしない人たちでも、神社やお寺に年に1回以上お参りする人が58%もいますから、お参りしない人は、全体の15%位ということになります。私も教会へ行く前は、明治神宮の初詣の雑踏に加わっていました。

初詣の理由は、前の年の感謝と新しい年の無事と平安祈願。お賽銭は大半の人が10円以上500円未満の硬貨。小銭しか入れない言い分として、「沢山入れると、願い事をかなえて欲しいという下心を、神さまに見透かされるような気がするのでは」とのこと。それにしましても、願い事をささげる神仏がどのような方なのか、そして私たちに対してどのように望んでおられるのかという神仏の思いを、参詣する人たちはどれ程自覚しているのでしょうか。そこを知りたいなーと私は思いました。皆さんは如何ですか？

### 【1】 悔い改める

さて聖書教育の教案では、12月からマタイ福音書を学び始めました。今週

は先週に引き続き、有名な「**心の貧しい人々は幸いである**」という言葉で始まる山上の説教です。

「**貧しい**」という言葉は、物乞いをして歩く程の貧しさ、**全くの欠乏**を意味する語です。そこで岩波訳では「幸いだ、**乞食の心を持つ者たち**、天の王国はその彼らのものである」 塚本訳では「ああ幸いだ、**神によりずがる貧しい人**たち、天の国はその人たちのものとなるのだ」と記しています。

また5節の「**柔和な人々は幸いである**。その人たちは地を受け継ぐ」の**柔和**も、弱々しい優しさではなく、**踏みつけられても反撃して相手を打ちのめそうとせず、じっと我慢している優しさ**を表します。そこで塚本訳は「ああ幸いだ、踏みつけられてもじっと我慢している人たち、約束の地なる御国を相続するのは、その人たちだから」と記しています。

このような貧しい人、柔和な人を、私たちは果たして**幸いだ**と思っているでしょうか。そして私たちは、そのような貧しさ、柔和さを身に着けようと願い、心がけて来たでしょうか。初詣をする大勢の人々の中に、このような貧しさ、柔和さを祈願する人が、果たしているでしょうか。

30才になられた主イエスは、ヨハネからバプテスマを受け、「これはわたしの愛する子」という天からの声を明確に聞き取り、救い主キリストとしての宣教活動を開始されました。「**悔い改めよ、天の国は近づいた**」(マタイ4:17)「**悔い改めよ**」とは、**自分の思いの向きを変えよ**ということです。今まで自分の生活の中にあつた**心の向き**を変えてしまうことです。どこに向かつてか。**神の支配に向かつて**です。

「天の国は近づいた」ユダヤ人は罪深い自分たちが神を汚してはいけないと自覚して、神の代わりに**天**という言葉を用いました。ですから**天の国**とは**神の国、神の支配**を言います。その神の支配が主イエスと共に、もうそこまで来ていると、語り始めたのです。そして弟子たちに対して、先ず貧しさ、柔和さについての**心の向き**を変えるようにと、教え始めたのでした。

先週の10日、上尾教会でのミニアシュラムに出席しました。冒頭に司会者からペトロ第二の手紙3章が示され、「30分間各自で静かに読み、小グループ毎に示されたみ言葉を分かち合いましょう」と言われました。私は慌てました。いくら読み返しても、さっぱりペトロが言わんとしていることがつかめないの

です。9人の小グループです。すぐ私の番になりました。「すみません。後回しにさせて下さい」他の方たちは皆普通の信者さんですのに、自分の受け取った言葉を溢れるように表明されていていました。「牧師生活 54 年、お前の聖書力は何と貧しいことよ」と恥ずかしくなりました。帰宅してから先輩牧師の書いたものを読んでいましたら、「聖書の豊かさと同時に、自分の貧しさを痛感させられる」という言葉がありました。「僕だけではないんだ」とホッとしました。

そうですね。聖書を通して、私たちは**神の語りかけ**を聞いているのです。分らなくて当然です。だから「求め続けなさい」「探し続けなさい」「叩き続けなさい」と主はおっしゃるのですね。「天の父は求める者に、良いものをくださるにちがいない」と主は約束して下さっています。神の霊、聖霊が助けて下さり、少しずつ、少しずつでも、深く豊かなみ言葉の一端を示して下さいます。有難いことです。今日も私は、示された山上の説教のみ言葉の一部を懸命に繰り返し読んで、今の私に示されたみ言葉を語らせて頂いています。貧しい言葉を申し訳ないと思っています。でもこれで精一杯なのです。お許し下さい。

## [2] 思い悩むな

「何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、思い悩むな。——あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存知である。」「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」(6:31~33) 塚本訳「あなたたちは何よりも、神の国と神に義(正しい)とされることを求めよ。そうすれば食べ物や着物など、こんなものは皆付け足して与えられるであろう。」

しかしそれに続く 34 節をお読みください。「だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」フランシスコ会訳「だから、明日のことを思いわずらってはならない。明日の思いわずらいは、明日にまかせるがよい。その日の苦労は、その日だけで十分である」

「食べること、飲むこと、着ること等の必要の一切を、神はご存知だから心配するな」とおっしゃりながら、「明日の思い煩いは明日にきなさい」とは一体どういうことなのでしょう。天の父なる神を信じて、神の子とされたのなら、必要な物は一切与えられるのだから、心配ごとは一切なくなるというのではないのです。今日の一日にも、悪いこと、いやなこと、辛いことが起きます。急に体の具合が悪くなって、医者にかかることが起こるかもしれま

せん。事故が発生して、その処理で一日の予定が壊れてしまうかも知れません。それを父なる神に全幅の信頼をよせて精一杯に取り組んで過ごします。そして自分なりに精一杯に働き、感謝して一日を終えます。

しかしそれで十分ではないか。明日はどうなるのか、明後日はどうなるのか。心配すれば切りがありません。だから先を思い煩わない。そして明日は明日で新しい思いで信仰をもって精一杯に**その日に与えられる苦しみ**と取り組んでいきなさいという信仰なのですね。これはとても大切な信仰ではないでしょうか。

### [3] 黄金律の教え

そこで主イエスはおっしゃいます。「求め続けなさい。そうすれば与えられる。探し続けなさい。そうすれば見つかる。門をたたき続けなさい。そうすれば開かれる。——あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。」そしてしめくくりとして、「**だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。**」

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」この言葉は、世間では**黄金律**と呼ばれています。国語大辞典では黄金律を「**黄金のように大切**であり、これさえ手に入れておけばよいと言える**教訓**。新約聖書マタイ7：12. に対する8世紀頃に与えられた名称」と説明されています。西欧のキリスト教世界ではこの聖句を、昔から **golden rule** と呼んできたからでしょう。

**いじめ**で生徒が**自殺する悲劇**が度々起こるようになりました。自分の言動が、相手を死に追い詰めるほどの苦痛を与えていたことに**無頓着な心**——どうしてそのような心の持ち主になってしまったのでしょうか。**相手を思いやる心**は、どうしたら育つのでしょうか。

「自分が人からそうされたら**嫌だ**と思うようなことを、**人にしてはいけない**。そんなことをされたら、お前だって嫌だろう」と言い聞かせて、我が子を育てるということが、私たちの間でも以前にはよく言われました。親が**勉強、勉強**と、成績の方に關心を寄せて、我が子にそのような大切な**躰け**すら、しなくなつたのでしょうか。「**他者の欲せざることは、汝すべからず**」とは儒教の教えでもありました。学校の先生たちは、どのように生徒を躰ているのでしょうか。

## **【結】 主イエスにしか言えない言葉**

ところが主イエスは「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなた方も人にしなさい」とお命じになっています。よくよく考えてみますと、これは**大変な教え**ですね。「しない」という行動否定は**消極的で楽な考え方**です。ところが「しなさい」「すべきだ」とは、**積極的に行動を起こさなければなりません**。楽ではありません。**原動力**を必要とします。それは何か。

主イエスはその原動力・愛をお与えくださいました。それが**十字架の愛**です。ですから「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなた方も人にしなさい」というご命令は、**主イエスにしか言えない言葉**なのでした。ヨハネの手紙にはこのような言葉が記されています。

「わたしたちが神を愛したのではなく、**神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました**。ここに愛があります。愛する者たち、**神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです**。」（Ⅰヨハネ 4：10～11）

私たちがよく知っている「**善いサマリア人のたとえ**」（ルカ福音書 10 章）。旅の途中で強盗に襲われ、服をはぎ取られ、半殺しにされて倒れている旅人を見て、道路の向こう側を通り過ぎて行った祭司や教会の役員レビ人。大事な集会奉仕の任務に遅刻すると思ったからでしょうか。でも本当に困っている人を、**何はさておき助ける愛**が大切だと、主イエスはおっしゃっています。

「**人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなた方も人にしなさい**」  
このみ言葉を、よくよく心に刻み直して、生きていかなければなりませんね。

お祈りします：神さま、私たちは新しい年を歩み始めました。「人からされたら嫌なことは、人にもしない」という教えすら出来ない私たちです。お赦し下さい。私の罪を私に代わってわが身に引き受け、その裁きを受けて、私を守り、滅びないように救って下さった主を仰ぎ見る礼拝を、私たちは今、守っています。この私の心の中に、私の救い主として臨んで下さっているあなたを、しっかり自覚して生きていく者にして下さい。思い煩いを一切あなたにお委ねし、あなたの御力の助けを求めつつ、この一週間を生きる者にして下さい。今日頂いたみ言葉に従う者にして下さい。武器をとり、かけがいのない命を奪い合う戦いを止めさせて下さい。世界に平和を打ち立てて下さい。十字架の救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。 アーメン